

大和市子宮頸がん検診を受ける方へ

- 子宮頸がんは、日本では女性のがんの中で罹患する人が多く、特に30～40歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。
- 検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。
市が実施している子宮頸がん検診は、死亡率を減少させることが科学的に証明された有効な検診です。
- がんは、発生してから一定の大きさになるまで時間がかかる場合もあれば、急速に進行する場合もあります。大切な命を守るために、20歳以上の女性は、子宮頸がん検診を定期的に受けましょう。
- 月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合はがん検診を待たずに医療機関（婦人科）を受診し、医師に相談してください。
尚、現在婦人科を受診し経過観察中の方は市の検診ではなく、主治医の指示を受けてください。
- 検診で「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査を受けてください。
がんは、症状が出るまでに時間がかかる場合がほとんどです。自覚症状がなくても精密検査を受けることが大切です。
- がんであっても「要精密検査」と判定されたり、死に至らないがんが見つかることがあります。結果的に必要性の低い治療を受けることになる場合や、検査によって出血などが起こることがあります。しかし、子宮頸がんて亡くなることを防ぐメリットの方が大きいことが証明されています。そのため、検診を定期的を受診すること、精密検査を受診することが大切です。
- 子宮頸がん検診後の精密検査は、コルポスコープ診、組織診、細胞診、ウイルス検査などです。複数の方法を組み合わせることもあります。
コルポスコープ診：膣拡大鏡を使って子宮頸部を詳しく見ます。
組織診、細胞診：異常が見られる組織を一部採取して詳しく調べます。
ウイルス（HPV）検査：子宮頸がんを引き起こすヒトパピローマウイルスの有無を調べます。
- 子宮頸がん検診では、がんになる一歩手前の前がん病変が見つかる場合があります。その状態によって治療を行う場合もあれば、治療をせずに医療機関で定期的に経過観察になる場合もあります。
- すべてのがんが、がん検診で見つかるわけではありません。検査では見つけにくいがんもあります。
- 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は市役所へ報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合、精密検査結果は、最初に受診した医療機関にも共有されます。
- 子宮頸がん検診を受ける30歳以上の方は、医師が必要と判断した場合、子宮体がん検診も受診することができます。

この用紙はお持ち帰りになり、検診結果が出るまで保管してください。

大和市医療健康課

〒242-8601 鶴間1-31-7（保健福祉センター4階）

☎ 046-260-5662（直通） FAX 046-260-1156